

# 正面から見て背骨が左右に曲がった状態

## 「側彎症」年齢で異なる特徴

九州大病院別府病院の治療・研究

### からだを 読み解く

▶ 12 ◀



整形外科教授  
はりま 谷 勝三  
ほり まつ かつみ

左右差、背中の突出、ウエストラインの左右非対称などをチェックします。近年では、家庭でも確認できるように運動器検診が導入されています。

背骨は、私たちの身体を支える大黒柱であり、「脊柱」とも呼ばれます。横から見ると緩やかなS字カーブを描いています。正面から見るとまっすぐであることが正常です。しかし、この背骨が左右に曲がった状態を「脊柱側彎症」と呼びます。側彎症は年齢によって原因や特徴が異なります。

小児期に見られるもの多くは、原因がはっきりしておらず、「特発性側彎症」と呼ばれます。特に進行するケースは10歳前後の女子に多く、成長に伴って進みます。初期には痛みなどの自覚症状が少ないため、早期発見を目的として学校検診が行われています。検診では、肩の高さの

側彎の程度が軽く、進行の可能性が低いと、経過観察で済むこともあります。しかし、悪化が予測される場合は装具（コルセット）による治療が行われます。さらに、進行が著しい場合、成長期が終わった後も進む可能性があるため手術が検討されます。放置すると、外見上の問題だけでなく、肺や心臓の機能に影響を及ぼす恐れがあるため注意が必要です。

一方、中高年層では、加齢や体質に伴う椎間板の変化（変性）によって起こるため「変性側彎症」といい、特に腰椎（腰の骨）で多くみられます（腰椎変性側彎症）。側彎に加えて正常な腰の反りが減少していわゆる腰痛がりの

小児期に見られる「特発性側彎症」のエックス線写真。背骨が大きく曲がっている



中高年層に多い「腰椎変性側彎症」のエックス線写真



状態になると「変性後側彎症」と呼ばれます。

腰椎変性側彎症では、腰痛に加えて足の痛みやしびれ、歩行困難などの症状が現れ、日常生活に支障を来すことがあります。治療はまず薬物療法やリハビリテーションなどの保存療法から始まり、症状が強い場合には手術が検討されます。手術療法を行う際には、全身の状態や生活の質(QOL)を考慮した治療方針が求められます。

## 進行や症状により手術も

側彎症は年齢によって異なる形で現れますが、いずれも早期発見と適切な対応が重要です。小児期には定期的な検診と家庭での観察が必要です。一方、中高年者では日常の姿勢や運動習慣の見直しを予防につながる可能性があります。背骨の変形は、見た目だけでなく身体機能にも影響を及ぼすため、気になる症状があれば整形外科専門医の受診をお勧めいたします。